

羽沢

子どもの居場所「つみ木」

羽沢町子ども支援会議



子どもの居場所「つみ木」は、特別養護老人ホーム羽沢の家を会場とし、地域の方とふれあいながら、遊びや学校の宿題など子どもたちが自由に過ごせる放課後の居場所として、毎月第1水曜日に開催している。

きっかけ

昨年6月に開催された羽沢地区地域支えあい連絡会の中で、子どもの居場所のことが話題になった。民生委員の方が、夕方、薄暗いところで子どもがたむろしている場面を幾度も目にしていたことや、「子どもは地域の宝」と言いつつも、放課後の子どもの行き場がないことが気になっていた。

そこで、話し合いに参加していた「羽沢の家」の杉本施設長から、会場提供の申し出があり、場所が確保されたことで開設に向けて話は進み、平成30年11月に「つみ木」はオープンした。



遊ぶ、学ぶは、子どもの自由



運営は、羽沢地区自治連合会や同地区社協、民生委員、主任児童員の方々に構成される「羽沢町子ども支援会議」が担う。

季節感のある工作や遊びのほかに、スタッフが用意した学年別の学習プリントもあり、子どもは自由に、地域の大人たちと触れ合いながら過ごすことができる。



開催時間前から子どもの元気な声が聞こえ、「つみ木」を楽しみにしている子どもが増えてきている。12月から参加している小学生は、「ここに来たら地域の人がいっぱいで安心です」と、はにかみながら話してくれた。はじめは緊張していたが、次回には友だちを誘って参加する子どももいて、口コミで「つみ木」の輪が広がっている。

地域に開かれた施設をイメージして



杉本施設長（特別養護老人ホーム
「羽沢の家」）

会場の提供を話し合いの中で即決した「羽沢の家」の杉本施設長は、「施設を地域の役に立つことに使えないかと常々考えていました。子どもの居場所の話が出た時は、迷いもなく、うちの施設を使ってもらえたらと思いました」と笑顔で話す。

子どもだけでなく大人も学べる場



代表の糸岡会長（羽沢東ヶ丘自治会長）

「つみ木」に関わるスタッフたちは、子どもが地域の人と関わることで、地域への愛着を持ってくれることを期待している。代表の糸岡会長は「ここには特別なルールはありません。指示されることの多い子どもが、自分で選び自由に過ごせる場があることで、子どもの主体性が育てばと思っています。ありのままが認められるそんな場所です」と目を輝かせる。



事務局の平本さん（民生委員）

「つみ木」という幼い頃の遊びを思い出す居場所のネーミングは、運営を担う民生委員の平本さんが名付け親だ。「『つみ木』という名前は、つみ木のように、楽しいことや日々のがんばりが重なって、大人と子どもがお互いに高め合う場になればと名付けました。ここでは、子どもが遊んだり学んだりするだけでなく、関わる大人も子どもから学ぶことがたくさんあります」と熱く話す。また、同じく運営を担う民生委員の金子さんは、「『つみ木』でみんなと遊び、地域での楽しい思い出を作って、豊かな心を持った大人になって将来の地域を担ってほしいです。毎日来たいと言ってくれる子もいて、子どもたちの笑顔を見られるのが嬉しいです」と、この活動で会う子どもとの触れ合いを楽しんでいる。



事務局の金子さん（民生委員）

「つみ木」では、地域を大事に思いながら暮らしてきた大人から、これから地域で育っていく子どもへ、地域愛のバトンが確実に渡されていくようだ。

【つみ木】

開催日時：第1水曜日 15:30～17:00

参加費：無料

会場：特別養護老人ホーム 羽沢の家